

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 2 0 0 8 年 1 月 調査結果 - -

(2 0 0 8 年 2 月 1 日)

調査期間：2008年1月21日～25日

調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 378 製造業 616 卸売業 235
小売業 736 サービス業 613

調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況(DI値を集計)
および、業界として当面する問題など

DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 03 - 3283 - 7836
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【2008年1月調査結果のポイント】

業況・売上・採算ともに大きく悪化、業況DIは03年6月以来の水準

1月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（40.8）よりマイナス幅が7.1ポイントと大幅に拡大して47.9となり、5カ月連続で悪化、2003年6月以来の水準に。

産業別の業況DIは、すべての業種でマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、受注・売上の増加、先行き期待という声が寄せられている一方、業況低迷、仕入コストの上昇による採算悪化、消費の低迷による売上減少などを訴える声も聞かれる。

【建設業】からは、「昨年に比べ、大型物件の受注が増加」（一般工事業）との声がある一方、「原材料価格の高騰に対し、受注価格は低く、採算が悪化」（建築工事業）、「受注の減少により売上が悪化する一方、資材価格の上昇分を価格に転嫁できず、厳しい状況」（一般工事業）との声が寄せられている。

【製造業】からは、「アジア市場向けの輸出は好調」（繊維機械製造業）との声がある一方、「仕入価格の値上がりに対し、売上悪化の懸念から販売価格への転嫁は難しい状況」（自動車附属品製造業）、「原材料などコスト上昇の影響で、倒産が増加」（製材木製品製造業）との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「気温低下の影響により、温かい食品の売上増加を期待」（農畜産水産卸売業）との声がある一方、「原油・仕入価格の高騰により、物流・梱包資材の価格が上昇し、採算が悪化」（他の卸売業）、「今後の景況不安による消費者の買い控えの影響で、売上の減少を懸念」（農畜産水産物卸売業）との声も寄せられている。

【小売業】からは、「婦人衣料は全体的に好調」（その他の小売業）との声がある一方、「個人消費の低迷に加え、競争の激化による売上の悪化を懸念」（百貨店）、「仕入価格の上昇や売上の低迷により、今後も厳しい業況が続く見込み」（商店街）との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「昨年に比べ、受注が増加」（ソフトウェア業）との声がある一方、「年末年始の来客が予想を大きく下回るなど、厳しい状況」（理容業）、「原材料価格の高騰に対し、競争激化の影響で販売価格への転嫁が実行できず、採算が悪化」（他の一般飲食店）との声も寄せられている。

売上面でも、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が9.9ポイントと大幅に拡大して39.8となり、2カ月連続で悪化した。産業別にみると、DI値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

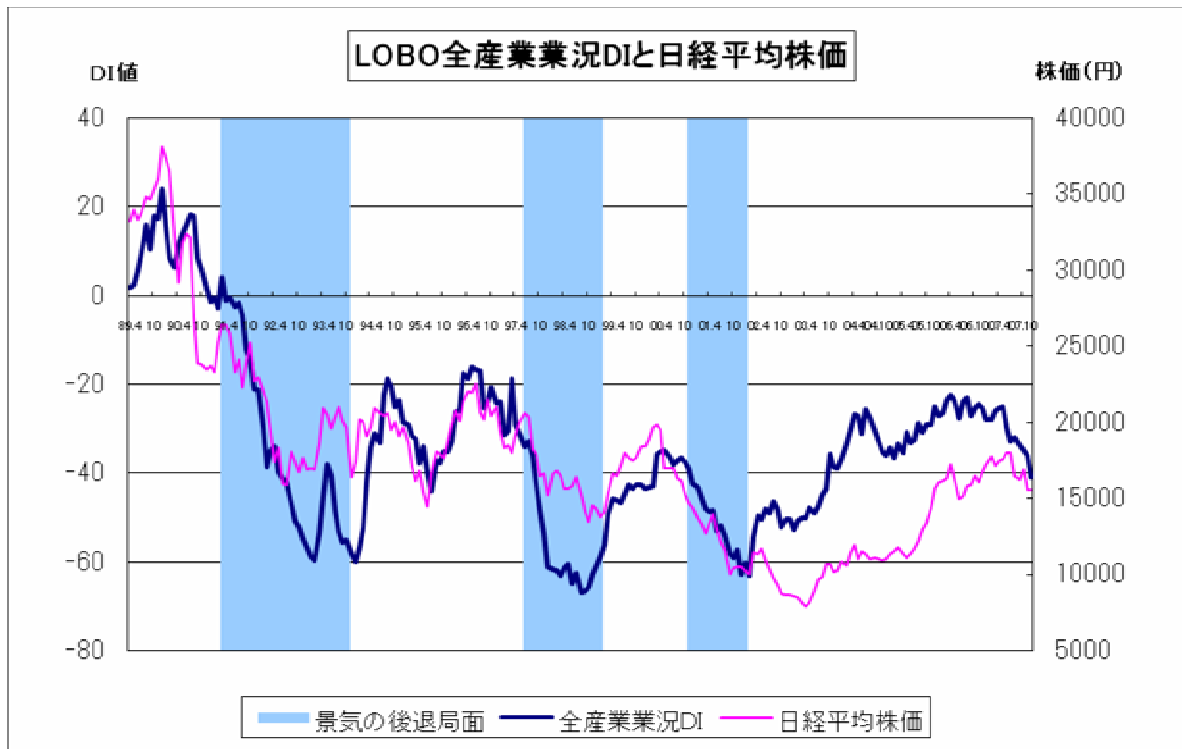
採算面でも同様に、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が8.6ポイント拡大して47.1となり、5カ月連続で拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が3.6ポイント強まって28.5となり、5カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感はずべての業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価D Iは、上昇超感が4 . 0ポイント強まって48 . 4となり、11カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値の上昇超感は卸売で弱まったものの、他の4業種では強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員D Iは、過剰超感が1 . 8ポイント強まって4 . 0となり、3カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値は建設で過剰超感が弱まったものの、小売で不足超感が弱まった他、製造、サービスで過剰超感に転じ、卸売で過剰超感が強まった。

向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月ベース)が44 . 3と、昨年同時期の先行き見通し(23 . 9)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

1月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 40.8 ）よりマイナス幅が7.1ポイント拡大して 47.9 となり、5カ月連続で悪化、03年6月以来の水準に。

産業別にみても、すべての業種でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 44.3 と、昨年同時期の先行き見通し（ 23.9 ）に比べて大きく悪化している。

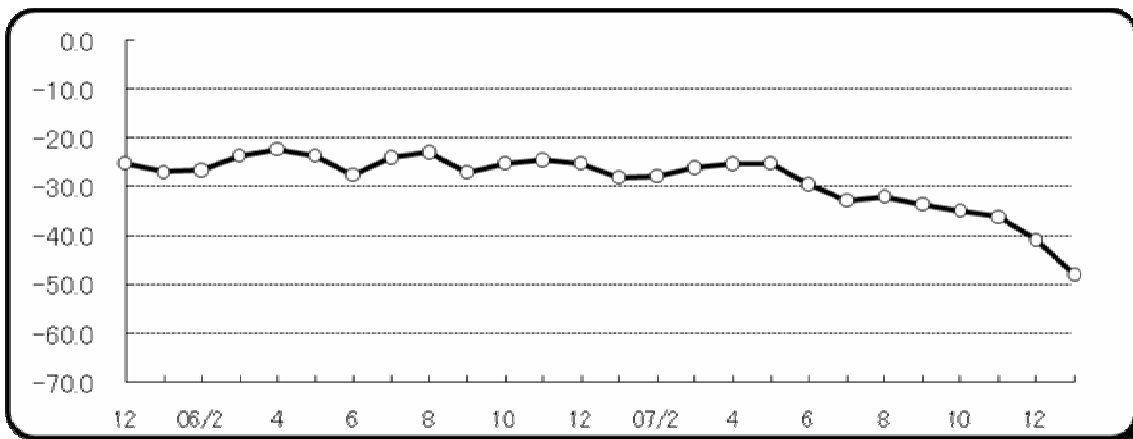
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	07年 8月	9月	10月	11月	12月	08年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	32.0	33.6	34.9	36.1	40.8	47.9	44.3 (23.9)
建設	44.3	45.4	47.2	46.8	57.3	58.1	54.3 (38.3)
製造	23.5	27.5	27.0	29.2	34.9	40.4	40.7 (17.0)
卸売	48.4	41.1	44.3	45.6	44.9	55.6	44.1 (25.2)
小売	31.1	33.8	33.8	36.0	39.0	49.2	46.2 (21.6)
サービス	27.9	29.1	33.0	32.6	37.1	44.5	39.7 (24.2)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年1月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が9.9ポイントと大きく拡大して39.8となり、2カ月連続で悪化した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

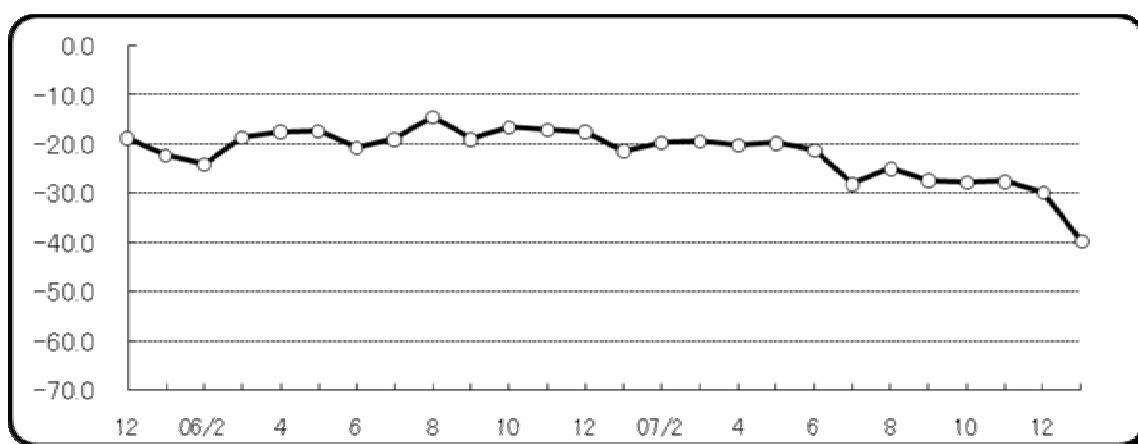
向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が35.2と、昨年同時期の先行き見通し(16.6)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	07年 8月	9月	10月	11月	12月	08年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	25.1	27.5	27.8	27.7	29.9	39.8	35.2 (16.6)
建設	37.9	37.5	39.8	45.2	51.6	55.7	50.2 (30.2)
製造	12.1	16.1	19.0	18.0	19.1	24.0	25.7 (7.6)
卸売	43.2	39.9	33.5	33.8	39.1	52.0	36.8 (15.1)
小売	27.7	30.8	29.7	26.4	29.8	43.9	38.8 (16.0)
サービス	20.6	23.8	24.7	25.8	23.7	36.6	30.8 (18.5)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面でも、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が8.6ポイント拡大して47.1となり、5カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

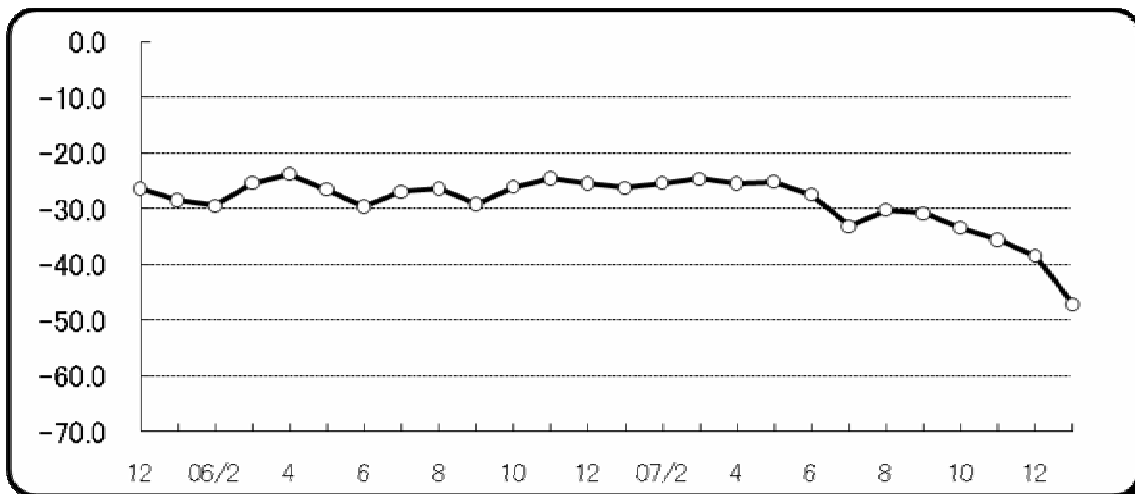
向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が42.8と、昨年同時期の先行き見通し(20.5)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	07年 8月	9月	10月	11月	12月	08年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	30.3	30.9	33.5	35.6	38.5	47.1	42.8 (20.5)
建設	40.2	43.8	46.3	50.0	56.7	63.0	53.5 (35.5)
製造	28.5	30.7	32.8	33.7	37.0	43.8	41.9 (17.0)
卸売	39.1	29.4	33.5	36.3	40.4	43.3	36.2 (20.8)
小売	27.3	27.6	30.6	31.4	34.3	44.4	40.2 (16.0)
サービス	25.8	27.4	29.4	33.1	32.6	45.3	42.9 (19.9)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	07年 8月	9月	10月	11月	12月	08年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	19.5	19.7	21.8	22.2	24.9	28.5	28.6 (17.6)
建設	34.6	35.1	37.6	34.5	38.3	45.1	41.1 (31.9)
製造	16.0	18.3	18.0	19.4	23.3	25.1	25.6 (12.4)
卸売	22.3	15.2	19.9	23.2	24.3	24.8	23.9 (17.7)
小売	18.0	17.8	19.3	17.1	20.7	27.6	27.8 (14.4)
サービス	12.6	13.7	18.2	22.0	23.0	23.5	26.6 (17.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が5カ月連続で強まった。産業別にみても、すべての業種で悪化超感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	07年 8月	9月	10月	11月	12月	08年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	33.0	34.7	35.9	39.8	44.4	48.4	47.2 (16.0)
建設	43.1	43.6	43.7	47.4	53.1	59.0	50.4 (22.4)
製造	50.0	51.3	50.2	54.4	57.5	60.7	52.7 (26.3)
卸売	31.6	33.6	26.6	30.0	34.0	31.1	41.4 (19.5)
小売	18.1	22.3	26.2	29.9	34.1	38.7	41.8 (8.3)
サービス	26.4	27.1	31.4	35.2	41.4	46.9	47.8 (9.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が11カ月連続で強まった。産業別にみると、卸売で上昇超感が弱まる一方、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	07年 8月	9月	10月	11月	12月	08年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	1.3	0.9	0.3	0.8	2.2	4.0	5.9 (2.4)
建設	16.7	13.6	15.0	15.5	18.0	15.9	19.6 (14.2)
製造	0.5	0.5	1.7	0.0	1.0	2.2	2.7 (5.5)
卸売	7.7	7.2	1.3	1.9	5.1	6.6	9.9 (10.1)
小売	4.2	6.6	5.3	4.5	1.5	0.0	1.5 (3.1)
サービス	2.9	0.5	0.5	1.8	1.1	2.2	4.3 (4.8)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感が3カ月連続で強まった。産業別にみると、建設で過剰超感が弱まったものの、小売で不足超感が弱まった他、製造、サービスで過剰超感に転じ、卸売で過剰超感が強まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が強まる見通し。産業別にみると、製造、卸売で過剰超感が弱まる一方、小売、サービスで過剰超感に転じ、建設で過剰超感が強まる見通し。

【2008年1月の景気キーワード】

更なる悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「受注件数の減少に加え、資材価格の値上がりにより採算が悪化。今後は、さらに厳しい状況となる見込み」(多治見・管工事業)、「原材料や包装資材に加え、輸送コストも上昇するなど、今後も厳しい状況が続く見込み」(新潟・水産食料品製造業)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「仕入価格の上昇や消費者の買い控えが目立ち、昨年より厳しい状況。今後の更なる悪化を懸念」(前橋・衣服・日用品卸売業)、「昨年末からの食料品の値上げにより、売上の減少を懸念」(岩見沢・百貨店)、「都市部からの新規参入により競争の激化が見込まれ、売上の悪化を懸念」(仙台・旅館)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの上昇

各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「公共工事の受注減少に加え、原油価格の高騰に伴う原材料価格の値上がりが今後の懸念材料」(赤穂・一般工事業)、「この1年だけで原材料価格の値上げが複数回数実施され、収益を圧迫」(岐阜・プラスチック製造業)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「仕入価格の高騰に伴う採算悪化の影響が大きく、倒産や廃業が増加」(土別・各種商品卸売業)、「包装用資材の値上がりが決定、今後は収益に影響が及ぶ見込み」(深谷・その他の小売業)、「資材価格や運送費の高騰分を販売価格に転嫁できず、採算が悪化」(臼杵・洗濯業)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下

株価低迷等による今後の景況不安や、原油価格の高騰に伴う各種商品の値上げに対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による悪影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「原油価格の高騰の影響で、高額品・衣料品の買い控えが顕著」(盛岡・百貨店)、「初売りやセールの売上が前年を大幅に下回るなど、厳しい状況」(柏・商店街) サービスからは、「商品価格の値上げ報道に伴う、消費意欲低下の影響により、宿泊客数が減少」(福島・旅館)、「正月の売上の悪化が当初の予想を上回るなど、厳しい状況」(土佐清水・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
07年 11月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	消費意欲の低下
12月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	消費意欲の低下
08年 1月	更なる悪化への懸念	仕入コストの上昇	消費意欲の低下

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月連続、売上D Iは4カ月連続、採算D Iは5カ月連続でマイナス幅が拡大した。「原油価格の高騰が経営を圧迫（一般工事業）」「建築基準法改正の影響による受注件数・売上の減少により、採算の悪化を懸念」（建築工事業）、「公共工事・民間工事ともに受注件数が減少し、収益・資金繰りともに厳しい状況」（一般工事業）、「受注価格の低下に加え、原材料価格の高騰に対して販売価格への転嫁が難しく、採算が悪化」（建築工事業）といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは5カ月連続でマイナス幅が拡大した。「造船・自動車関連は好調が続く見込み」（産業用電気機械業）との声が寄せられる一方、「原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁できず、収益を圧迫」（ニット生地製造業）、「建築基準法改正の影響により、住宅着工数が減少、売上が大幅に悪化」（製材木製品製造業）、「低価格の輸入製品の影響により競争が激化し、一段と厳しい状況」（金属製品製造業）、「厳しい業況のため、新卒採用ができず、若い人材が不足」（金属加工機械業）といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月連続、採算D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「石油関連製品の価格上昇分を販売価格に転嫁できず、厳しい状況」（各種商品卸売業）、「原油価格に加え、年明けから食料品価格が上昇、今後への影響を懸念」（農畜産水産物卸売業）、「メーカーが仕入価格の値上げを予定するなど、厳しい状況」（鉱物金属材料卸売業）、「例年に比べ、飲食店の年末年始の売上が悪化」（各種商品卸売業）といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは8カ月連続でマイナス幅が拡大した。「年末年始の売上が例年に比べ大きく減少するなど、非常に厳しい状況」（その他の小売業）、「温暖化の影響により、冬商品の売上が不調」（商店街）、「大型店や商業施設との競争が激しく、売上の増加は厳しい状況」（百貨店）、「原油高の影響による個人消費の落ち込みに加え、食料品の値上げが予定されるなど、今後への悪影響を懸念」（その他の小売業）、「採算が悪化し、閉店する店舗が増加」（商店街）といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは2カ月連続、売上D I、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「燃料価格が上昇し、車両の買い替えを先延ばしするなど厳しい状況」（運送業）、「消費低迷の影響により、例年に比べ予約数が少なく、今後も厳しい見込み」（旅館）、「仕入価格の高騰に伴う採算の悪化により、閉店数が増加」（料亭）、「年末年始も売上は減少。来客数も少なく、今後も個人消費の低迷は続く見込み」（他の一般飲食店）といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、すべてのブロックでマイナス幅が拡大した。なお、全ブロック合計は5カ月連続でマイナス幅が拡大した。

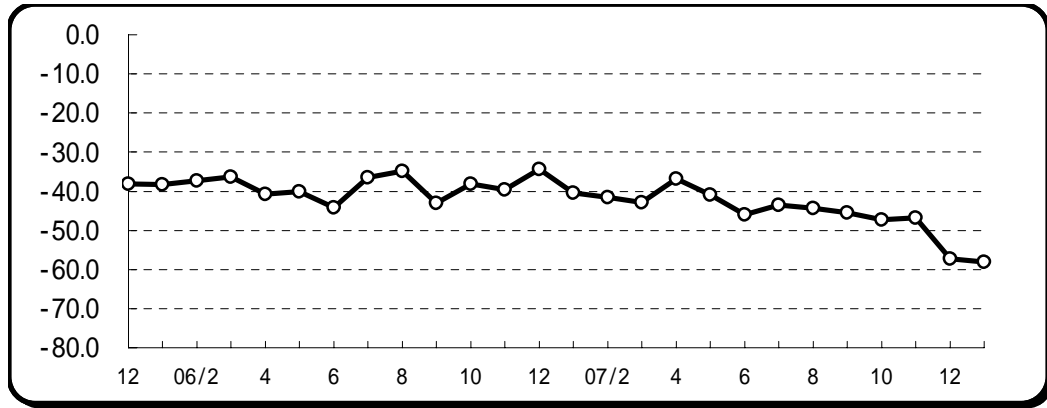
ブロック別の向こう3カ月(2月~4月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。なお、全ブロック合計も悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

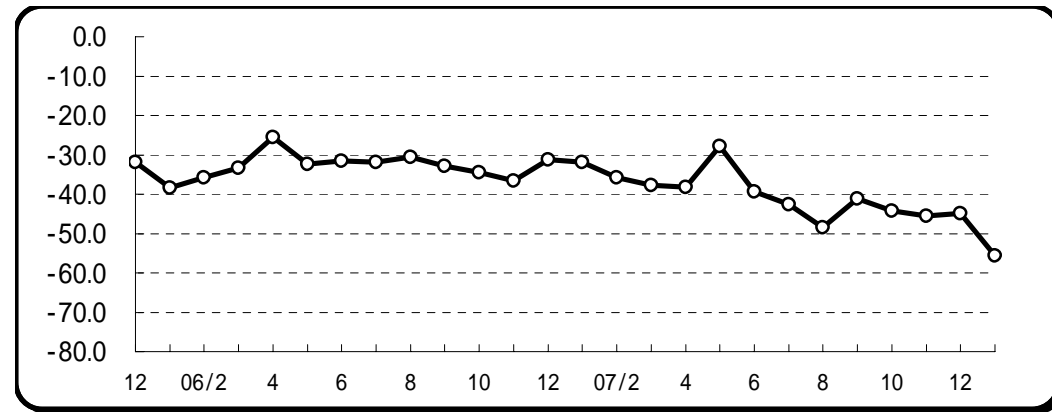
	07年 8月	9月	10月	11月	12月	08年 1月	先行き見通し 2~4月
全 国	32.0	33.6	34.9	36.1	40.8	47.9	44.3 (23.9)
北 海 道	37.1	35.5	39.8	46.5	41.7	50.4	45.3 (39.1)
東 北	31.7	34.8	39.0	36.8	44.7	49.3	47.9 (27.9)
北陸信越	30.3	34.9	31.6	35.5	40.6	48.8	39.3 (16.5)
関 東	27.8	30.3	31.7	29.9	39.1	44.8	40.2 (18.1)
東 海	30.2	32.9	33.1	32.5	37.0	40.8	42.9 (20.7)
近 畿	31.4	32.2	37.1	32.5	43.4	54.2	55.9 (29.1)
中 国	39.8	44.0	38.8	41.2	42.6	54.5	51.5 (32.1)
四 国	43.1	42.3	35.3	46.6	37.3	44.4	39.3 (28.6)
九 州	29.5	26.1	35.1	40.1	42.7	46.2	38.8 (16.7)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

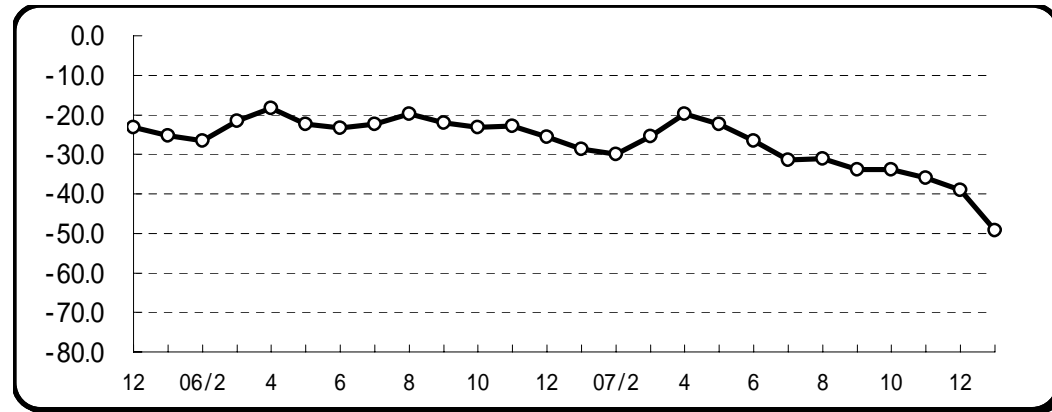
建設業



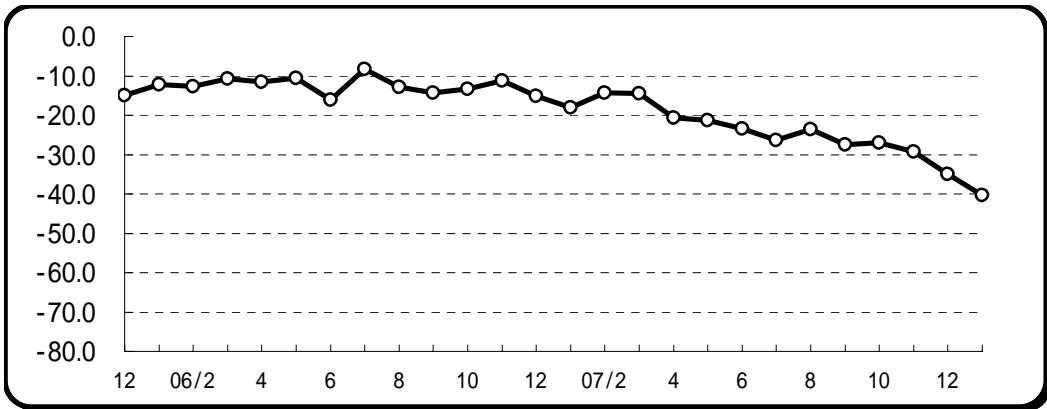
卸売業



小売業



製造業



サービス業

